

第38回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和5年3月23日(木)	午後2時30分～3時30分	
2	場所	蒲郡市役所	北棟集会室	
3	出席者	委員	愛知工科大学機械システム工学科教授	村上新
		委員	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本幸正
		委員	愛知運輸支局	山内三奈 (代理 中井昂翔)
		委員	愛知県都市整備局交通対策課	大林益英 (欠席)
		委員	総代連合会会長	細井政雄 (欠席)
		委員	形原地区公共交通協議会	天野忠則
		委員	東部地区公共交通協議会	小田繁男
		委員	西部地区公共交通協議会	杉浦吉昭
		委員	三谷地区公共交通協議会	廣中康人
		委員	大塚地区公共交通協議会	小田眞一
		委員	蒲郡市身体障害者福祉協会	金沢孝一
		委員	蒲郡市老人クラブ連合会	白石よね子
		委員	蒲郡市社会福祉協議会	鵜飼秀好 (欠席)
		委員	蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	牧原延明 (欠席)
		委員	NPO法人ブックパートナー	新井麻利子
		委員	蒲郡市ボランティア連絡協議会	藤田智江
		委員	蒲郡市子ども会連絡協議会	鈴木照江
		委員	蒲郡商工会議所	小澤素生 (代理 青木宣貴)
		委員	蒲郡市観光協会	杉山和弘 (代理 鹿野公朗)
		委員	名鉄バス株式会社	大野淳 (代理 加藤義郎)
		委員	豊鉄タクシー株式会社	長縄則之
		委員	株式会社かね自動車	天野成美 (欠席)
		委員	名古屋鉄道株式会社	花村元気 (代理 丸山浩喜)
		委員	公益社団法人愛知県バス協会	小林裕之 (欠席)
		委員	愛知県タクシー協会	深谷克巳
		委員	愛知県交通運輸産業労働組合協議会	壁谷政志 (代理 河田則夫)
		委員	愛知県蒲郡警察署	彦坂光成 (代理 安藤敦史)

委員	東三河建設事務所	高橋秀明
委員	蒲郡市長	鈴木寿明
委員	蒲郡市市民生活部長	飯島伸幸
事務局	蒲郡市交通防犯課長	鳥居昭裕
	蒲郡市交通防犯課係長	伴文明
	蒲郡市交通防犯課主事	石川雄策
	地域公共交通計画推進事業受託事業者	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	1名	

4 議題

(1) あいさつ

5 報告事項

- (1) 蒲郡市内公共交通の利用状況等について・・・・・・・・・・【資料1】
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について・・・・・・・・・・【資料2】
- (3) 乗継タクシー事業実証実験について・・・・・・・・・・【資料3】
- (4) 地域公共交通ネットワーク再編検討調査について・・・・・・・・・・【資料4】

6 協議事項

- (1) 令和5年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について・・・・・・・・・・【資料5】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が24名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっていること及び地域公共交通計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

- ・ あいさつ
蒲郡市長より、3月定例の市議会冒頭の予算大綱の説明において、市政運営に臨む姿勢について話をした。公共交通対策については、蒲郡北部地区にて乗継タクシー事業の実証実験を開始した。また、4月からは形原に続き、東部、西部、三谷、大塚地区のすべての支線バスにおいて、週4日運行を開始する。さらに、持続性の高い公共交通体系の構築に向け、市全域の公共交通ネットワークの再編検討調査を行っていく。引き続き、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

本日は協議事項が1件、報告事項が4件を予定している。それぞれのお立場から積極的なご意見をいただき、よりよいものにしていきたい。どうぞよろしく願いいたしますとのあいさつがあった。

(3) 協議事項

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況等について

- ・ 事務局より資料 1 に基づく説明が行われた。

〔質 疑〕

なし

イ 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

- ・ 事務局より資料 2 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

ウ 乗継タクシー事業実証実験について

- ・ 事務局より資料 3 に基づく説明が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ いくつか設定されているタクシー停留所で、同時刻の運行時間が設定されているが、予約が集中した場合に既存の車両でカバーできるのか、若しくはそこまでの需要がなく対応可能だと想定されているのか。どのような予測をされているのか確認したい。

(事務局)

- ・ カバーできないほどに利用が集中する想定は見込んでいない。また、どれほどの需要があるかを確認するための実証実験でもあるので、それほど利用があることが分かれば、違う運用や別の方法を含めて検討するものである。

(委 員)

- ・ 利用ニーズの確認を含めた実験であると理解した。利用状況の把握や聞き取りについて、利用者だけでなく事業者とも連携を図り傾向を読み取ることに繋げられるようにしてほしい。

エ 地域公共交通ネットワーク再編検討調査について

- ・ 事務局より資料 4 に基づく説明が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 調査が実施されること自体は良いことであり期待したい。交通会議ではなく市としての調査であると理解した。市の調査であるので、交通会議の枠組みを超えた調査も可能であることから、温泉施設の送迎バスや福祉関係の車両、ラグーナのシャトルバス等市内の移動手段となるバスがあるので、可能であればそれらの利用を含めた検討を期待したい。

法定協議会としても検討は可能だが、市の調査ゆえ、どの事業者、どの車両とか関係なく一つの移動手段として、総括的に市民にとって最適な交通ということではいろいろな検討が可能だと思う。

調査対象には鉄道も入ってくるか。

(事務局)

- ・ 鉄道も入る。

(委員)

- ・ 個々のモードの最適化ではなく、市全体の最適化、高い視点からのあり方の検討としてしっかりお願いしたい。

(委員)

- ・ 利用者アンケートの調査方法は決まっているか。バスの中での調査だけでなく、駅やタクシーなどいろんなところで調査を実施し、意見を聞いてほしい。

(事務局)

- ・ 詳細についてはこれから整理する。広い範囲での調査となるので、事業者にも協力いただき、いろいろな調査をしたいと考える。委員の皆様にもご協力をいただきながら実施したい。

(4) 協議事項

ア 令和5年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について

- ・ 事務局より資料5に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

[質疑]

(委員)

- ・ 支出の支線バス運行事業費について、西浦地区が少ないのは事業期間の影響か。

(事務局)

- ・ 年度途中からの事業を想定しているのので、他と比較して少ない額となっている。

(委員)

- ・ 形原地区の状況を報告すると、金曜日の運行増もあり、昨年度より1ヶ月早く5,000人を超えた。また、今年度は18回乗りこぼしがあった。交通事業者の負担にもなっているかもしれない。

(事務局)

- ・ Aコープ、ユトリーナなどでの利用が多く、のりこぼしが発生していることは承知している。交通事業者には、乗りこぼし対応も含めて委託しており、経費も含まれている。例年より多い点は課題として認識している。うまく分散しての利用をお願いしつつ、状況を確認していきたい。

(委員)

- ・ 本日、JRを利用して訪問したが、観光利用と思われる高齢者に会った。これから観光客はますます増えると思われる。一方で、利用状況の報告で、名鉄にしがま線の定期利用が少なかった。路線バスの利用もかなり少ない状況だった。支線バスは上向きな報告だったが、鉄道・路線バスが厳しく、利用促進対策が重要である。事業費として、支線バス利用促進事業費が計上されているが、支線バスだけでなく路線バス等についても取り組みが必要である。どんな取り組みを考えているか。

(事務局)

- ・ 支線バスにおける利用促進としても乗り継ぎが大切だと認識している。支線バスの利用から、鉄道や路線バスへの乗り継ぎ利用も進めたいと考える。そうした利用を促すPR活動も行っていきたい。

(委員)

- ・ 乗継促進については、PRをぜひ進めてほしい。
- ・ 鉄道の通学定期の利用が少なかった。通勤定期については、ニューノーマルへのシフトもあり仕方ないと思う。通学については、親の送迎が定着してしまったかもしれないが、高校等への働きかけもしながら公共交通を使ってもらう何らかの取組みができればと思う。

また、市民に地元温泉施設の利用を促すような活動を観光協会等と一緒に進められるとよい。

(事務局)

- ・ 通学利用については、学校、生徒数は減っていないので、交通事業者と情報交換したが要因が分からない。親の送迎が進んでいるのかもしれない。春からも通学に使ってもらえるようなPRを進めたい。

(5) その他

(市長)

- ・ 本日もさまざまなご意見をありがとうございました。それぞれの立場から頂戴した意見をふまえ、市全体として最適化していくことを考えたい。

市民のニーズ、観光客のニーズをしっかりと捉えたい。ニーズが既存の交通体系に合っていないのであればニーズに合わせていく、ということで再編検討を進めたい。交通事業者と密にコミュニケーションをとり進めたい。

主要な施設に市内の各地点から行けるようなモデルケースを設定し、それを分かりやすく伝えるなど、それぞれのニーズに応じていく姿勢が市として必要と考える。ショッピングや文化活動、通院、公共施設利用等も含めて考えていきたい。再編検討にあたっては積極的にご提案・ご助言をいただきたい。

公共交通とは別に、ゼロカーボンシティ推進室を設置することを報告したい。交通の視点でも、駅まで歩く、公共交通の利用、乗り合わせる、などゼロカーボンに通ずることを考えていきたい。もう一つ、妊産婦タクシー事業を始める。いざという時のニーズに応えるものである。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は6月頃の開催予定との連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

印

蒲郡市地域公共交通会議委員

印
